

交渉ハ大正六年七月マテ継続セリ而モ帝国政府ハ從來濠洲ニ移民ヲ送ラザル方針ヲ取りタルヲ以テ濠洲ノ日英条約ニ加入スル曉ニモ此ノ方針ニ変更ヲ加フルノ意思ナキ旨ヲ特ニ予メ声明スル所アリ唯本邦人ノ濠洲ニ於ケル旅行、居住及營業等ニ関シテ欧米人ト均等ノ待遇ヲ得ンコトヲ主張シ或ハ日濠貿易ノ發展ヲ説キ或ハ日英同盟ノ利益ヲ唱ヘ勧誘大ニ努メタリト雖濠洲側ニ於テハ固ク白濠主義ヲ持シテ現在ノ程度以上ニ門戸開放スルヲ肯ゼズ単ニ関税ニ関スル最惠国待遇ヲ約スル条約ヲ締結スルノ意アルヲ示スノミニシ

テ其ノ他ノ点ニ付テハ帝国政府ノ提議ヲ殆ド取上ゲズ其ノ拒絶ノ表面ノ理由トシテハ現在ノ程度以上ニ濠洲ノ門戸ヲ開放スルハ同連邦国論ノ容レザル所ナルコト及英國及其ノ海外領土ト外国トノ關係ハ戦後ニ於テ一大革新ヲ要スルカ故ニ目下交渉ヲ開始スヘキ時機ニアラザルコトヲ挙ゲタリ尚本件交渉ノ進行中其ノ助成策トシテ新西蘭ヲ日英条約ニ加入セシメントシタルモ是亦何等ノ効果ヲ収メズシテ止メリ

(完)

事項九 「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件

一一八 一月十五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人ニ対スル土地所有禁止法制定方請願ニ

関スル「ヴァーノン」農会決議ニ付報告ノ件

附屬書

一月十四日附浮田領事ヨリ「ブルウスター」首

相宛書翰写

ヴァーノン農会決議ニ於ケル東洋人ノ意義ニ付

注意喚起ノ件

公信第四号

(一月三十日接受)

大正七年一月十五日

在晚香坡領事 浮田郷次 (印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

東洋人ノ土地所有ヲ禁止スルノ法律制定方ニ

関スル「ヴァーノン」農会ノ決議ニ関スル件

本月十日付ヴァーノン通信トシテ当地ウオールド紙及ビクトリヤ、タイムス紙上ノ報道ニ依レハ「ヴァーノン」農会

(Vernon Farmers' Institute) ニ於テハ

「B、C、州内ニ於テ今後東洋人カ農業用土地ヲ所有ス

ルコトヲ禁止スルノ法律制定方ニ関シ当州政府ハ極力尽力スヘシ」

トノ請願ヲナスコトノ決議ヲ通過シタル趣別紙^(註)切抜ノ通り掲載有之候然ルニ客年八月中小官オカナガン地方視察旅行ノ際親シク実見セル処ニ依レハ「ヴァーノン」附近ニ於ケル本邦人農業者ハ極メテ少数ニ有之未タ土地ヲ所有スルカ如キ地位ニ達シ居ラズ白人側ノ氣受ケモ頗ル良好ニ有之(詳細客年八月二十五日付オカナガン地方視察報告参照)反之支那人農業者中ニハ野菜栽培等ニ於テ白人ト對抗セルモノ有之候ニ付右決議ハ主トシテ支那人農業者ノ發展ヲ阻害セントスルノ手段ニ出デタルモノト被存候得共現ニ「ケローナ」方面ニ於テハ邦人中土地ヲ購入シ果樹又ハ野菜類ヲ栽培シ其成績見ルヘキモノ有之尚ホ右ノ機運ハ当館ニ於テモ助長致度考ヲ有シ居ル位ニテ從テ事実上白人農業者ト競争ノ位地ニ立ツハ勢ヒ免カレザル処ニ有之「ヴァーノン」農会決議ノ趣旨ハ或ハ將來ニ於ケル邦農ノ發展ヲモ併セテ防止セントスルニアルヤヲ知ルヘカラズ何レニセヨ州内各

地ニ於テ近時漸ク苐栽培等ノ目的ヲ以テ永住のニ土地ヲ所有スル本邦農家増加シツツアル際之等ノ決議ハ甚タ望マシカラズ將又目下対日感情ハ比較的緩和セル際ナリトハ云ハ近來東部地方ニ於テ提唱セラルル東洋人労働者輸入計画ニ就キテハ依然白人側ヨリ反対ノ声喧シク之等偶然ノ動機ニヨリ或ハ事ノ成否ニ拘ラズ党略上其他ノ目的ヲ以テ東洋人ノ土地所有ヲ禁止スルカ如キ法律案ヲ近ク開催セラルルヘキ州議會ニ提出セラルルコトナキヲ保シ難キヲ以テ不敢私信体ヲ以テ別紙写ノ通り「ブルウスター」首相ノ注意ヲ喚起シ置候条此段報告旁申進候 敬具

本信写送付先

在オタワ総領事

別紙切抜省略

(附屬書)

一月十四日附浮田領事ヨリ「ブルウスター」首相宛書翰写
ヴァーノン農会決議ニ於ケル東洋人ノ意義ニ付注意喚起ノ件

HIS IMPERIAL JAPANESE MAJESTY'S CONSULATE.

Vancouver, B. C. January 14th, 1918.

Hon. H. C. Brewster,

only while the word itself literally involves Japanese. Thus, you will notice that the same report appearing in "The Victoria Times" was titled as "Okanagan Against Chinese Ownership."

I beg to ask, therefore, should the matter be brought to your official consideration, you would kindly act in a manner which will not affect Japanese ownership of land in any way. Otherwise it may lead to an infringement of the treaty stipulations.

Awaiting an assuring reply.

I remain,

Dear Sir,

Yours respectfully,

(Signed) S. Ukita
Consul of Japan.

一一九 一月十七日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
中村通商局長宛

東洋人労働者輸入ニ対スル政治家等ノ表面上
ノ反对及實際上ノ必要ニ関スル件

親展

大正七年一月十七日

Premier,
Victoria, B. C.

Dear Sir:-

"The World" of the 10th instant under the title "Would Restrict Oriental Labour" reported that Vernon Farmers Institute passed a resolution declaring:

"that the Provincial Government should be asked to make every effort in its power to have such law enacted as will forever debar Orientals from acquiring title to agricultural lands within the Province of British Columbia etc."

In August, last, I made a trip to Okanagan Valley to investigate the condition of Japanese residents and in Vernon district I found only a few Japanese farmers tilling land on lease or working by wages. Their services were highly appreciated by the employers as honest and good hands. They were all satisfied and not a word came to my notice that the Vernon farmers object of Japanese acquiring lands.

Without doubt the resolution was intended as a measure against Orientals other than Japanese. The word "Orientals" is frequently used to denote Chinese

在晚香坡

領事 浮田郷次

中村通商局長殿

別紙沼野総領事宛拙信貴官ノ御参考迄ニ供貴覽度茲ニ差進候 敬具
(別紙)

写

親展

大正七年一月十七日

在晚香坡

浮田領事

在オタワ

沼野総領事殿

拜啓陳者労働欠乏ノ声ハ近時加奈陀全領ヲ通シテ一層喧シク当方面ニ於テモ食糧生産ニ必要ナル農園労働者ヲ初メ一般労働不足ヲ感スルコト特ニ甚シク之レカ救正方法ニ関シ各種ノ議論行ハレ政治家又ハ労働組合員等ニ於テハ自己ノ立場上飽クマテ東洋人輸入ニ反对致シ居リ候得共要スルニ他ヨリ輸入ヲ計ラザル限り實際ノ解決ハ付キ兼候儀ト存候一昨十五日付ヲ以テ及御通知候如ク当州領議員側ヨリハ日

本労働者輸入ニ反対ノ意ヲ「オタワ」政府ニ声明セル趣ニ有之候得共右ニ関シ本日C・P・R・支配人「ピーター」氏カ小官ニ内話セル所ニヨレハ議員等表向ノ意見トシテハ反対スルヨリ外ナキモ實際問題トシテ日本人等ヲ輸入セザレバ動き取レザルノ状態ナルカ故数日前各議員等ト懇談ヲ遂ケタルニ何レモ其意ヲ諒シ居レリ何レニセヨ此種ノ問題ハ「オタワ」ナル「カウカス」ニテ決定セラレ「ウォア、メジュアア」トシテ施行セラルヘキモノナレハ不遠何分ノ決定ヲ見ルニ至ルヘシト云ヒ而シテ日本労働者輸入条件トシテハ白人労働補足ノ趣意ナルカ故従来ノ従業員ヲ罷免セザルコト、労働賃銀ヲ低下セザルコト、充分ナルボンドヲ積ミ立ツル事（不用トナルニ從テ送還スルノ意カ）等ナリト申候

一時的多数労働者ノ輸入ニ就テハ大ニ考慮ヲ要スル次第ニ有之候得共右聞込候ママ御参考トシテ茲ニ御通知申進候

写 中村通商局長

敬具

一一〇 一月二十九日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人労働者輸入計画ニ対スル英領コロンビ
ア州ノ態度ニ関スル件

公第二三三号

(二月十五日接受)

大正七年一月二十九日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

東洋人労働者輸入計画ニ対スルB、C、州ノ

態度ニ関スル件

加奈陀各地ニ於ケル労働者不足ノ声ハ日ヲ追ウテ甚ダシク特ニ来ルヘキ農繁期ニ対スル準備トシテ之レカ補救ノ方法ハ各方面ニ於テ研究セラレツツアリ現ニオタワ政府ニ於テハ之レカ為メ特ニ会議ヲ催フシ居リ一般ニ東洋人特ニ支那人ヲ一定期間奉公契約労働者 (Indentured Labor) トシテ輸入スヘシトノ説最も多数ヲ占メ居ル模様ナルガ東洋人輸入計画ニ対シ最も重大ナル關係ヲ有スル当B、C、州ノ態度ハ實際問題トシテハ容易ニ之レニ賛成セザルモノアリ現ニ労働者ノ不足ニ苦メルモノハ主トシテ資木家側中ノ農業者ナルコト勿論ナルガ当州ノ如キハ之レヲ平原三州ニ比

スルトキハ一般農業ハ未タ盛ンナリト云フヘカラザルモ果實栽培比較の盛ンニテ果實採取期ニ際シテハ一時ニ多数フルツ、ピツカスノ果實摘取者ヲ要スルヨリ此方面ノ労働者ノ不足ハ昨年度ニ於テモ頗ル切迫シ居リ「オカナガン」地方ニ於テハ「ミセス、ケンプ」首唱ノ下ニ婦人ノ摘取人ヲ代用シ表面好結果ヲ得タルカ如ク喧伝スルモ雇用者側ニ於テハ能率ノ低クシテ且ツ所謂「遊ヒ半分ノ小使取」ノ目的ニテ来集セル婦人ノ使用ハ却ツテ迷惑ヲ感スルコト一般ノ認ムル処トナリ婦人及学童ニ果物摘取ヲナサシムルカ如キハ一時ノ好奇心ニ外ナラズ實際問題トシテ経済的ニ永続スヘキモノニアラズ其等ノ關係ヨリ過日ヴィクトリヤニ於テ開催セラレタルB、C、州果實栽培業者組合 (British Columbia Fruits Growers' Association) ニ於テハ三十五票対五票ノ大差ニテ東洋人労働者ヲ戰時中農業用トシテ輸入スル件ヲ可決シ又同地ニ於ケル婦人会亦東洋人輸入賛成ノ決議ヲナシ夫々当局者ニ対シ申請スル処アリ当州内ニ於テ公然ト東洋人輸入ヲ決議セルハ前記ノ二団体ニシテ少クトモ資木家側ニ於テハ此際自己ノ立場ヨリ東洋人輸入ハ大ニ希望スル所ナルモ当局者並ニ政治的方面ニ關係ヲ有スル人々ノ態度ハ政略

上ヨリ容易ニ之レニ賛セザルモノアリ現ニ当州首相ブルウスター氏ガ去ル十九日自覚候補者ノ補欠選挙運動ノ為メ「ペンチイクトン」ニ出張応援演説ヲナセル際本問題ニ対スル聴衆ノ質問ニ対シ答フル処ニヨルモ同氏ハ依然「白人ノB、C、州タルコトヲ保持シ東洋人輸入計画ニ対シテハ移民問題カ良好ナル結着ヲ見ル迄ハ反対スヘキ旨ヲ声明シ又最近オタワニ於ケル会議ノ模様モ支那人若クハ日本人ヨリモ印度人側ニ有利ナル方法講ゼラレントスルヤニモ伝ヘラレ当局者トシテハ仮令其必要ハ認ムルモ愈々実行ト決スル迄ハ其心意ヲ公表セザルコトヲ得策トシ且ツ又当州ノ議員ニ至リテハ苟モ公開ノ席上ニ於テ議員トシテノ意見ヲ徴セラルルニ於テハ勢ヒ反対ヲ表明セザルベカラザル立場ニアリ其然ル所以ノモノハ言フ迄モナク政治上最も大ナル勢力ヲ有スル労働者側ニ於テ依然トシテ之等ノ計画ニ反対シ居ルカ為メニシテ現ニ一昨二十七日当地ニ開催セラレタルB、C、州労働組合 (B. C. Federation of Labour) ニ於テハ年期契約支那人労働者ノ輸入計画ニ対シテハ満場一致ヲ以テ之レカ反対ノ決議ヲナシ「オタワ」ニ於ケル同組合ノ代表者タル Y. R. Midgley ニ対シ其旨ヲ電訓シタル事

実ニ鑑ミ大勢ハ B、C、州ノ関スル限リ斯卡ル問題ニハ政治上ヨリ反对ノ声アルヤ明ナリ尤モ資本家側特ニ C・P・Rノ如キハ現ニ鉄道労働者ノ不足ニ苦シミ居リ内々其方面ノ運動ニ着手シ居ルヤニモ伝ヘラルルヲ以テオタワ政府トシテハ加奈陀全部ノ産業保護ノ上ヨリ何等カ救済方法ヲ講スルコトトナルヤモ計ラレザルモ現ニ唱導セラルルカ如ク戦時中ニ限り一時時期奉公の労働者トシテ輸入スルカ如キ方法ハ少クトモ本邦人労働者ヲ招誘スル手段トシテハ体面上賛成スル能ハザルノミナラズ實際問題トシテモ労働者自身モ決シテ有利ナルモノニアラザルヘシト思ハル

右及報告候 敬具

本信写送付先 オタワ総領事

一二一 一月三十日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人ニ対スル土地所有禁止法制定方ニ関スル
「ヴァーノン」商業会議所等ノ決議ニ付報告ノ件

附屬書 一月二十八日附ブルウスター首相ヨリ浮田領事

宛返輪写

ヴァーノン農会決議ニ付注意ヲ喚起シタルニ対

農会同様ノ決議ヲ為シ何レモ東洋人ノ土地所有ニ反对ノ気
声ヲ高メ居候得共別紙写ニ依レハ未タ公然政府ニ申出テタル
模様無之候

右報告申進候 敬具

写「オタワ」 沼野総領事

(附屬書)

一月二十八日附ブルウスター首相ヨリ浮田領事宛返輪写
ヴァーノン農会決議ニ付注意ヲ喚起シタルニ対シ回答ノ件

PRIME MINISTER

Province of

British Columbia

VICTORIA

28th, January, 1918.

Hon. S. Ukita,

Consul of Japan,

P. O. Drawer, 758,

Vancouver, B. C.

Dear Sir:-

Replying to your letter of the 14th, instant, receipt of which was acknowledged from this office on the 16th, instant, and having reference to an item appearing in the "Vancouver World", reporting a

シ回答ノ件

公信第二六号 (二月十五日接受)

大正七年一月三十日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

東洋人ノ土地所有ヲ禁止スルノ法律制定方ニ

関スル「ヴァーノン」農会ノ決議ニ関スル件

本件ニ関シテハ去ル十五日附公信第四号報告ノ通り州首相ノ注意ヲ喚起シ置キ候処今回別紙写ノ通り回答有之候間右ニ御承知相成度現時加奈陀ニ於ケル労働ノ欠乏ハ朝野ノ問題トナリ事業家側ニ於テハ東洋人ノ移入ヲ唱道スルモノアルト共ニ一部ノ政治家又ハ労働者側ニ於テハ大ニ反对ヲ唱ヘ其飛沫ハ本期州議會ニ於テ何時排東洋人案ノ議題ニ上ルナキヲ保シ難ク候間当館ニ於テハ予テ注意ヲ怠ラズ本件ノ如キモ事前ニ予防シ兼テ今後或ハ発生スルコトアルヘキ諸他排日の行為ニ対スル当方ノ意向ヲ示サントスル手段ニ外ナラズ候

其後「ヴァーノン」ニ於テハ商業会議所及老兵会ニ於テモ

resolution passed by the Vernon Farmers Institute respecting the disbaring of orientals from acquiring title to agricultural lands within the Province of British Columbia; I may say that no representations having reference to this matter have been made to me up to this time.

Should representations of this kind be received, your letter of protest will receive due consideration.

I have the honour to be,

Sir,

Yours truly,

(Sgd) H. C. Brewster

一二二 二月十三日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人ニ対スル土地所有禁止法制定問題ニ関

スル件

公第三七号 (三月十六日接受)

大正七年二月十三日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

東洋人ノ土地所有ヲ禁止スルノ法律制定方ニ
関スル「ヴァーノン」農会ノ決議ニ関スル件

本件ニ関シテハ客月三十日付公信第二六号報告ノ通り右決議ハ未ダ正式ニ当局ノ手許ニ呈出セラレザル趣ニ有之候ヘ共先般美府出張ノ序ヲ以テ念ノ為メ検事総長フアリス氏ノ注意ヲ喚起致置候処同氏ハ本件ハ左程憂慮スヘキモノナラザルベシトテ左マデ気ニ懸ケ居ラザル模様ナリシモ近来労働問題ノ論議喧シク特ニ農産奨励ハ一般ノ唱導スル所ニモ有之現ニ来ル二十日ヲ以テ美府エンプレッス、ホテルニ於テ開催セラルヘキB、C、州農業者組合 (United Farmers of British Columbia) ノ定期總會ニ於テモ支那人契約労働者輸入問題ト共ニ「東洋人カ農園ヲ所有支配スルノ問題」ヲモ討議スルコトト相成居リ候ニ付決シテ油断シ難キコトト被存折角注意中ニ有之候
右及報告候 敬具
写 オタワ総領事送付

一二三 二月二十六日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

モノ有之候間御参考ノ為メ別紙相添ヘ報告申進度尚ホ「コーフーン」大尉ハ日本人ニ対スル州当局者ノ覺醒ヲ促サンカ為メ右ニ対スル返信トシテ日本人ノ立場ヲ明ニスヘク小官ノ意見ヲ求メ来リ候ニ付差支ヘナキ程度ニ於テ我希望ヲ披瀝シ「コーフーン」大尉ヨリ間接首相ニ通スル処アラシメ度思考罷在候
右申進候 敬具

写 在オタワ沼野総領事
註 別紙省略

一二四 二月二十七日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

朝刊新聞「ヴァンクーヴァー、デイリー、サン」ノ附録トシテ日本号発行ニ付報告ノ件
公第四一号 (三月二十八日接受)

大正七年二月二十七日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

当地朝刊新聞「デイリー、サン」ハ現政府党所屬タル自由

英領コロンビア州ニ於ケル帰化日本人ノ待遇
ニ関スル件

機密公信第二号 (三月二十八日接受)

大正七年二月二十六日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

先年当地ニ於テ日本人義勇兵団組織當時ヨリ邦人ノ為メ種々斡旋ノ勞ヲ採リ来レル「コーフーン」大尉ハ曩ニ戦地ヨリ帰還セル帰化日本人ノ希望ニヨリ鮭ノ巾着網漁撈許可方当州首相宛公然トナク交渉候処客月二十五日付ヲ以テ該大尉宛別紙写ノ通り回答有之即チ当州漁業ハ中央政府ノ管掌ニ属スル故ヲ以テ請求ニ応ゼザリシモ我義勇兵ノ拳ニ対シテハ功績ヲ認メ帰化日本人ノ權利問題ニ関シテハ政府ニ於テモ考慮中ナル旨ヲ告ケ末段ニ於テ現首相ノ常套責任回避説ヲ為シ帰化日本人ノ一般權利義務ノ問題ハ事帝国ニ関スル問題ニシテ早晚満足ナル解決ヲ要スル次第ナレハ州政府トシテ此ノ際何等ノ措置ニ出ヅルヲ欲セザル旨申越候
右ハ当州在留邦人待遇方ニ関スル政府ノ意向ヲ窺フニ足ル

党ノ機関紙ニテ昨年中多年当地ニ於テ発行シ来レル同シク朝刊ノ「デイリー、ニュース、アドヴァータイザー」紙ヲ買収合併シタルガ以来当地唯一ノ朝刊新聞トシテ次第ニ勢力ヲ拡張シ其発刊部数二万内外ニ有之候処該社大持主タル「クロミー」氏ハ兼テ小官ノ知己タルノミナラズ先年義勇兵募集以来日本人ニ対シ好意ヲ表シ来レル大尉「アール、テイ、コーフーン」ト親戚ノ間柄ニ有之候ニ付先般同大尉ト内議シ日加親善及両国貿易促進ノ目的ヲ以テ該紙ニ日本号ヲ附録トシテ発刊セシムルコトニ「サン」社ト協議相整ヒ本朝同紙附録トシテ別送ノ通り発行致候

右ハ寧ロ俄カノ思立ニ出デタルモノニテ掲載スヘキ記事ノ如キモ精選スルノ暇ナク内容甚ダ貧弱タルヲ免カレザルモ亦止ムヲ得ザル次第ニ候尚右発刊ニ就テハ会社側ヨリ助成金ノ要望ナキニアラザリシモ「コーフーン」大尉ニ内意ヲ含メ当館トシテハ物質的ニ格別支出スルコトヲ為サズ唯タ在留邦商ヲ勸メ広告掲載ヲ以テ間接ニ援助ヲ与ヘシムル事ニ取計ヒ候尤モ当管内ニ於テハ桑港又ハ「シアトル」等ノ如ク有力ナル邦商少ク從テ廣告主ノ如キ多クハ小売業者等ニシテ是等廣告ヲ一時ニ掲載スルハ体裁余リ宜シカラズ或

ハ対外人策上不得策ナラズヤトノ懸念生ゼザリシニアラザリシモ新聞社ニ対シテハ勿論相当ノ利益ヲ与フルノ要モ有之今回ハ主トシテ邦商ノ義侠的好意の広告ニヨリ不完全ナガラモ別送ノ体裁ニテ発刊シタル次第ニ有之候条右ニ御了知相成度此段申進候

写 オタワ総領事送付

一二五 二月二十八日 在オタワ沼野総領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋労働者誘入ニ関スルカナダ政府及全国労働派領袖間ノ了解ニ付報告ノ件

公第二一號 (三月二十八日接受)

大正七年二月二十八日

在オタワ

総領事 沼野安太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

加奈陀政府ハ全国各地労働派ノ領袖ヲ「オタワ」ニ招集シ本年一月以降數回ノ会見協議ヲ重ネ戦争ト労働トノ調節並一般労働ニ関スル戰時施設等ノ問題ニ関シ相互隔意ナキ意見ノ交換ト意思ノ疎通トヲ計リタル結果政府ハ農業労働者

茲ニ及報告候 敬具

本信写送付先

晚香坡領事

一二六 三月九日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

東洋人排斥ヲ目的トスル危険産業ノ雇傭規整

法案英領コロンビア州議會ニ提出セラレタル

ニ付抗議シタル件

第七号 (三月十日接受)

当州労働党社会主義議員 Hawthornthwaite ハ龔ニ Act

to regulate Employment in dangerous industries ニ関

スル議案ヲ提出シ製材所、鑛詰所、火藥製造所、鋌山等ニ

使役セラルルモノハ歐洲語ニ関スル教育試験ニ及第スルヲ

要ストナシ戦争終結後六ヶ月後ニ於テ実施セラルヘキ案ナ

ルガ其趣旨トスル所ハ是等ノ事業ヨリ体能ク東洋人ヲ排斥

シ帰還兵ニ就働口ヲ与ヘントスルニアリ当館ニ於テハ未タ

該案ノ全文ヲ詳ニスルニ至ラザルモ既ニ第二読会ニ入り議

会ノ形勢ハ該案ニ賛成スル傾向アルヲ以テ不取敢新首相

Oliver 氏宛抗議シ置ケリ

ニ限り徴兵法ヲ適用セザルコト、国内能働人口力ノ登録ヲナスコト、戰時ノ必要ヲ標準トスル産業ノ類別ヲナスコト、東洋労働者ニ関スル件等數項ニ関シ相互ノ了解ヲ基礎トシ決定シタル方針ヲ本年二月十四日ニ至リ発表シタルカ右政府発表ニ係ル決定事項中東洋労働者ニ関スル条項ハ左ノ如シ

東洋労働者誘入問題ニ関シ労働代表者側ハ全然其誘入ヲ必要ナリトスルノ議ヲ駁シ加奈陀ノ主要産業ニ要スル労働ハソノ調整宜シキヲ得バ国内現存ノ労働力ヲ以テ充分ナリトナシ東洋労働者ノ誘入ハ人民ノ産業的、社会的及道德的標準ヲ必ズヤ低下スルノ結果ヲ生スヘシトノ意見ナリ、而シテ政府モ亦苦力労働^{クワリ}ノ誘入ヲ避ケンコトヲ欲スルモ若シ将来特種必要ナル労役ニ此種労働者ノ一時的誘入ヲ以テスルニ非ザレバ加奈陀戰時ノ須要ニ応ズルコト不可能ナリト認メラルル場合ニハ追而労働代表者ト重ネテ協議ノ上政府ハ本問題ニ関シ更ニ考量ヲ加フヘシ

右ハ東洋労働者誘入ニ対スル全国労働代表者側ノ意向並各方面ニ於ケル大企業家、鐵道業者等ノ希望ヲ参酌セル政府ノ方針ヲ示スニ足ルヘキモノト思考被致候ニ付為御参考右

一二七 三月十一日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人排斥ヲ目的トスル危険産業ノ雇傭規整

法案ニ関スル件

附屬書一 三月七日附浮田領事ヨリ新首相オリヴァー宛

書翰写

危険雇傭法案州議會提出ニ付抗議ノ件

二 三月九日附新首相オリヴァーヨリ浮田領事宛

返翰写

危険雇傭法案ニ関スル申出ニ対シ回答ノ件

三 危険産業ニ於ケル雇傭規整法案写

機密第四号 (三月二十八日接受)

大正七年三月十一日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

東洋人労働者排斥ノ手段トシテ或種労働者ニ

対シ英語若クハ歐洲語教育試験ヲ課セントス

ル法律案ニ関スル件

労働党議員社会主義者「ホーソンスウェート」カ客月二十

六日ノ当州議會ニ於テ工場使用人ハ英語ヲ解スルモノタラザル可カラズトノ立法ヲ主張シ東洋人労働者ノ排斥ヲ企テ居ル次第ハ客月二十八日付公第五〇号末段ニ申進置候処同氏ハ本月一日ノ議會ニ於テ八時間労働案ト共ニ An Act to regulate Employment in Dangerous Industries ナル議案ヲ提出致候

而シテ三月七日右両案ノ二読会ニ際シ「ホーソンスウェー」トノ議案説明ニ依レバ後者ハ帰還兵ニ就職口ヲ与フルト共ニ間接ニ東洋人労働者排斥ノ手段トシテ賃金ノ割ヨキ危険ナル職業ニ従事スル労働者ニ対シテハ英語若クハ他ノ歐洲語ノ教育試験ヲ賦課スルモノナルコトヲ明言シタル趣紙上ニ報道セラレタルガ当時未タ該議案ハ当館ニ送付無之其詳細ナル内容ハ知悉シ難キモ其排日案タルコトハ明瞭致候ニ付拙電第七号ヲ以テ報告ノ通り不取敢オリヴァー首相ニ対シ別紙甲号ヲ以テ通報ノ通り非公信体ヲ以テ抗議シ一方電報ヲ以テ該案至急送付方ヲ要求致置候

右小官ヨリノ抗議ニ対シテハ今朝別紙乙号ヲ以テ通りオリヴァー首相ヨリ回答有之別紙議案モ入手致候

該案ヲ検スルニ表面上ハ何等東洋人ノ排斥ヲ明記セザルモ

労働者ノミナラズ資本家側ノ打撃モ少ナカラザルモノ有之候ニ付日本人労働者ニ最モ利害關係ヲ有スル製材所製鐵所等ノ経営者ニ対シ内部ヨリ該案通過阻止運動方ニ関シ懇談致候処何レモ之レニ賛シ夫々適當ノ手段ヲ採ルコトト相成候

尤モ一部ノ間ニハ該案ハ仮令通過スルモ之レカ実行ハ党東ナシ等ト樂觀スルモノモ有之候ヘ共其實行シ得ラルルト否トニ拘ラズ苟モ法律トシテスカル排日案ヲ存置セシムルコトハ将来ニ於テ常ニ禍根ヲ醸成スルノ基ナルノミナラズ從來帝國政府カ排日案ニ対シテ採リ来リタル主義ノ上ニモ違背スルコトニ有之特ニ開戦以來対日感情ノ良好ナル現時ニ於テスカル法律案ノ通過ハ他日甚ダ悪影響ヲ来タスモノト被存候ニ付引続キ百万之レカ通過ヲ防止スル手段ヲ講スルノ所存ニ有之候尤モ前記ノ如ク本案ハ之レヲ從來ノ排日案ニ比スルニ極メテ巧妙ニ起草セラレ居ルト先般政府党ハ首領ノ逝去ニヨリテ一頓挫ヲ来シ内部ノ融合モ円満ナラズ新首相オリヴァー氏ノ声望ハ未タ自黨員ヲ統率スルニ足ラズ労働者及帰還兵ニ迎合シテ自党ノ保護ノミニ窮心スル無責任ナル議員等ガ本案ニ反対スルコトヲ敢テセザル点モアリ

多数本邦人ノ就職シ居ル製材所製鐵所鋌山業等ノ如キ工場ノ一般労働者ニ対シ英語又ハ歐洲語ヲ以テ記セル該法文ノ読方書方ヲ試験セントスルモノニ有之其東洋人労働者排斥ノ目的ニ出デタルモノナルコトハ提出者自身ノ言明ニヨリテモ知ラルル処ニ有之候但シ之レヲ從來屢々当州ニ於テ提議セラレタル排日案ニ比スルニ人種的區別待遇ヲ条文中ニ明記スルコトヲ避ケ目下朝野ノ研究問題トナレル帰還兵優遇ト称スルカ如キ好箇ノ口実ノ下ニ巧ニ起案セラレタル点ト「ホーソンスウェー」カ該議案ノ説明ニ際シ我日本ノ発展進歩ヲ賞讃シ日本人ハ伶俐ナル国民ナレバ少シク教育アルモノナレバ之等ノ試験ヲ通過スルコトハ易々タルモノナラント述ヘタルカ如キハ該案ニ対スル当方ヨリノ抗議ヲ予期セルカ如クニモ被存候

而シテ該案ノ施行期限ニ関シ紙上ノ報道ニヨレバ戦争終結後六ヶ月以降ト有之目下労働者ノ不足ヨリ生スル各方面ヨリノ物議ヲ避ケタルカ如キモ大ニ考慮シテ計画セラレタル排日案ニ有之候

依テ小官ハオリヴァー首相ニ対シ該案ノ内容ニ言及シ今明日中更ラニ注意ヲ喚起スルノ所存ニ有之候モ該案ノ通過ハ

テ今後ノ成行ニ就テハ小官ニ於テ大ニ憂慮シ居ル次第ニ有之候 敬具

本信写送付先 オタワ総領事

(附屬書一)

甲号写

三月七日附浮田領事ヨリ新首相オリヴァー宛書翰

危険雇傭法案州議會提出ニ付抗議ノ件

March 7th, 1918.

Hon. John Oliver,
Prime Minister,
Victoria, B. C.

Dear Sir:-

It is with great pleasure to learn that you are appointed to the most responsible post of the prime Minister of the Province in succession of Late Hon. H. C. Brewster, for which please accept my sincere congratulations. It was a happy recollection that the relation existed between the late Premier and myself was very friendly nature, and I hope that the same cordial relation will be maintained between us.

According to newspaper reports Mr. Hawthorn-thwaite recently introduced a Bill to regulate em-

ployment in Dangerous Industries to the Legislature. The object of the measure, judging from the explanation given today at the Assembly by the Proposer himself, is to eliminate Orientals from essential industries in the Province.

In the absence of the full text of the Bill, I am not in a position as yet to discuss the matter in detail, but in principle I am compelled to protest against any measure preventing the employment of Japanese either directly or indirectly.

As you well observe, from my verbal note presented to the later Premier on the 5th February, my Government is keen as ever to place Japanese subject in the Province in the same footing as the subject or citizens of most favoured nation.

Should the Bill, unfortunately pass the Legislature, it will add another cause of irritation to my Government and people; such a cause at the present critical juncture of the world, in which Japan is allied with Great Britain, must be avoided at any rate.

I hope, therefore, that you will be good enough to exert your best efforts in preventing any Bill which

Vancouver, B. C.

Hon. Dear Sir:-

I am in receipt of your letter of the 7th inst., in the first paragraph of which you tender your congratulations on my accession to the Premiership, and though I, in common with so many others, deplore the untimely death of our late Premier, I am aware of no reason why the cordial relations between yourself and him, which you are good enough to mention, should not continue under the present circumstances.

I note your reference to a Bill now under discussion in the House, and have read with care your tentative intimation of what its effect will be and how it will be regarded by the Japanese people in Canada and by the Government of H. I. J. M. the Emperor of Japan. I shall take the earliest opportunity to review again the contents of the note verbal handed by you to the late Premier, and when you come to Victoria - as you intimate it is your intention to do - I shall make an opportunity to discuss these matters with you.

In the meantime, thanking you again for your

is directed against Japanese however may it be devised.

I am,

Dear Sir,

Yours very truly,

(Signed) S. Ukita
Consul of Japan.

P. S. I am intending to go over to Victoria to pay my personal respect to you in near future. In the mean time would you kindly consider the matter of my verbal note presented to the late Premier.

(秘 藏 書 11)
ニ寄付

三月九日附新首相オリヴァーヨリ浮田領事宛返翰
危險雇傭法案ニ關スル申出ニ對シ回答ノ件

PRIME MINISTER

Province of
British Columbia

VICTORIA

March 9th, 1918.

Hon. S. Ukita,

Consul of Japan,

P. O. D. 758,

thoughtful courtesy at this time,

I am,

Hon. dear Sir,

Yours truly,

(Signed) John Oliver

(秘 藏 書 11)

「カーン・ハンス・ウーナー」ニ依リ州議會ニ提出サル危險雇傭
ニ於ケル雇傭規整法案等

Mr. Hawthornthwaite,

BILL.

No. 30.

An Act to Regulate Employment in Dangerous Industries. His Majesty, by and with the advice and consent of the Legislative Assembly of the Province of British Columbia, enacts as follows:-

1. This Act may be cited as the "Dangerous Employment Act."

2. "Employer," for the purpose of this Act, means any person or body of persons, corporate or incorporate, liable for wages of an employee, and any manager, foreman, boss, or agent acting for or on behalf of such person or persons liable for the wages of an employee.

3. No person who shall fail to read or write this Act in English language, or in any language of Europe, shall be employed in any of the industries named and set out in section 4 of this Act.

4. The following industries, for the purpose of this Act, shall be classed as dangerous industries: Coal-mines, powder-works, saw-mills, quarries, metalliferous mines, cement-works, shingle-mills, canneries, sash-and-door factories, and planing-mills.

5. Any employer who employs any person in contravention of this Act may be enjoined therefor, and shall also be liable to prosecution, under the "Summary Convictions Act" and amending Acts, before two Justices of the Peace or Police Magistrate, and upon conviction for such offence shall be liable to a penalty or fine not exceeding one hundred dollars nor less than ten dollars in each instance.

~~~~~

一二八 三月十五日

在ヴァンクーヴァー 浮田領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

東洋人排斥ノ危険雇傭法案ニ関シ州首相ニ懇

談ノ件

致候処当方ニ於テ該案ガ日本人ニ対スル差別的待遇ナリト認ムヘキ論点ハ「英語若クハ歐洲語ヲ以テ教育試験ヲ課スル」ノ点ニ有之候即チ他ノ歐洲人ニ対シテ特別ノ恩恵ヲ与フルニ拘ハラズ日本人ニ対シテハ最惠國ノ待遇ヲ得ザル点ヲ以テ抗議スルノ外最モ有力ナル条理ヲ発見スルコト困難ナルモノト被認候然ルニ交渉ノ結果若シ先方ニ於テ歐洲語ヲ除外シ単ニ英語ノミノ試験ヲ行フコトニ修正シタル場合ニ於テハ仮令其結果ハ東洋人ヲ排除スルノ一手段タルコトトナルニモ拘ラズ他ノ歐洲人モ亦同様ノ不便ヲ感スルコトト相成又若シ日本語ヲ以テ試験セラルルコトトナル共何レニシテモ邦人ノ現状ニ鑑ミ不利ニ有之余リニ深入シテ本案ノ条項ヲ論難スルハ却ツテ自縛ニ陥ルノ嫌ヒモ有之候寧ロ首相ニ面会シ概括の二本案ノ採消方ヲ懇談スル方有利ナリト被思考候ニ付昨十五日美府出張首相ニ面会シ今回ノ排日案ハ日本人労働者ニ少ナカラザル打撃ヲ与フルモノニシテ其日英条約ニ抵触スルハ勿論敵國タル独逸人ニ便宜ヲ与フルコトナリ同盟國タル我日本人ヲ差別待遇スルハ此際日英親交ノ上ニモ甚タ好マシカラザル所以ヲ極メテ懇談のニ縷述シタル処首相ハ之レヲ了解シ該案ハ之レヲ採ミ消ス

第八号

(三月十六日接受)

往電第七号排日案ニ関シ三月十五日首相ニ面会シ縷々其不穩当ナル所以ヲ陳述シタル処首相ハ之ヲ諒シ該案ハ必ズ採消シ決シテ議會ヲ通過セシメザル旨確答セリ

~~~~~

一二九 三月十六日

在ヴァンクーヴァー 浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人排斥ノ危険雇傭法案採消方ニ関シ報告

ノ件

機密第五号

(四月八日接受)

大正七年三月十六日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

東洋人労働者排斥手段トシテ或種労働者ニ対

シ英語若クハ歐洲語教育試験ヲ課セントスル

法律案ニ関スル件

本件ニ関シテハ本月十一日付機密第四号拙信ヲ以テ申進置候通り直チニ「オリヴァー」首相ニ対シ該案ノ内容ニ言及シ更ラニ其注意ヲ喚起スルノ所存ニ有之熟々其内容ヲ研究

(Kii) コトトスヘシト答ヘ尚ホ小官ヨリ念ヲ押シタルニ対シ首相ハ該案ハ必ズ通過セシメザルコトトスヘキ旨確答シタルヲ以テ小官ハ暫ク首相ノ斷言ニ信賴スルコトトシ其好意ヲ謝シ之レヲ辞シ候然ルニ同夜昨年度議長タリシ「ウイアート」氏(Mr. Weart. 北晚香坡撰出議員)ニ面会ノ機會ヲ得タル処同氏ハ該案ノ二読会ニ際シ修正意見ヲ陳述シタルコトヲ承知致居リ候ニ付本案ハ議會ヲ通過スルノ模様ナルヤ否ヤヲ尋ネタル処同氏ハ議會ノ形勢ニ就キテハ何トモ予測シ難キモ原來斯クノ如キ法律案ハ当然他ヨリ抗議ヲ免カレザルヘキモ私見トシテハ東洋人排斥等ノ意味ヲ離レ鋤山採石業等ノ如キ地下ニ就働スルモノハ危険予防ノ上ヨリスルモ是非トモ相当英語ノ知識ヲ有セザルベカラザルハ從來ト雖モ之レヲ認メタル処ニ有之之等ノ点ヨリ同氏ハ先般第二読会ニ際シ歐洲語云々ノ六語ヲ削除シ且ツ職業ノ種類ヲ鋤石採掘ノ地下労働ニ限定スルノ修正意見ヲ述ベタル次第ナル旨ヲ語り居リ候

從來排日案ニ対シ当州首相ハ稍モスレハ領事ニ対シ之レカ撤消ヲ保証スルカ如キ態度ニ出デ其間三読会ヲ通過シタル例モ有之候間本案ノ成行モ全然安心スルコトヲ得ヘキモノ

トハ思ハレズ候モ既ニ首相ガ小官ニ対シ前記ノ如キ確答ヲナセル以上ハ少クトモ原案ノ儘ニテ通過スルコトハナカルヘシト被存候但シ「ウイアート」氏ノ言ノ如ク排日等ノ目的ヲ離レ實際ノ必要ヨリ特種ノ危険労働就業者ニ対シ英語ノ教育試験ヲ課セントスル修正案ハ現ニ之等ノ地下労働者保護ノ目的ヲ以テ金属鉱山検査法中ノ地下労働時間ヲ八時間トスルノ案政府ヨリ提出セラレ居ル等ノ關係モアリ前記ノ如キ修正ヲ加ヘラレタル後ハ該案ノ通過ハ或ハ免レザルモノナラント被察候

然ラバ多年ノ懸案トシテ常ニ不安ノ地位ニアリタル「カンバール」炭坑就働者ノ如キハ直接其打撃ヲ蒙ルコトト相成此点ハ小官ノ猶ホ憂慮スル次第ニ有之候蓋シ万一斯カル形式ニ於テ該案ノ通過シタル場合ハ如何ナル点ヨリ之レニ抗議シテ可然ヤハ未タ小官ニ於テハ適切ナル論拠ヲ穿鑿シ得ザル次第ニ有之候此点ニ関シテハ該案向後ノ成行ニヨリ或ハ電報ヲ以テ請訓スル場合モ出来致スヘク被存候条右御含相成候様致度報告旁此段申進候 敬具

追テ首相ニ対シテハ本件ニ関シ本官ト会見ノ次第ヲ確認スルノ書面ヲ差出スコトト致置候

回提出者ホーソンスウェーフトノ議案説明ニ対シ政府側ヲ代表シ検事総長兼労働大臣フアリスノ政府意見ノ発表有之候フアリス氏ハ当州ニハ労働問題処理ノ為メ他州ニ先チ労働省新設セラレ自身ハ其主腦タリ依テホ氏ハ其独立的態度ヲ改メ今後労働問題ニ対シテハ労働者ノ利益ヲ代表スル当州政府ト協力スルコト至当ニシテ政府案中ニハホ氏ノ議案以上ニ重要ナルモノアリトテ先ヅホ氏ノ態度ヲ批難シ更ラニ本案ハ資本家側ヨリノ抗議アルノミナラズ提出者自身ハ斯カル法案ハ同盟国タル日本トノ關係ヲ紛糾セシムルコトトナルヘキヲ顧慮セザル如キモ、日加間ノ關係ハ戦後一層親密ヲ加フヘシトテ本案ニ対シ政府ハ明カニ不賛成ナルコトヲ表明致候依テホ氏ハ之レヲ弁駁セント欲シタルモ鉱務大臣スローン氏巧ミニ討議延期ノ動議ヲ提出シホ氏ノ鋭鋒ヲ挫キ從テ本案ハ未タ二読会ヲ終了セザルモ政府側ノ態度ハフアリス氏ノ弁駁ニヨリテ明白ト相成聊カ小官ニ於テモ心強ク感シ候

右法律案ノ成行不取敢報告申進候 敬具

写送付先 オタワ

本信写送付先 オタワ総領事

一三〇 三月二十五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人排斥ノ危険雇傭法案ノ成行ニ関シ報告

ノ件

機密公第六号

(四月十五日接受)

大正七年三月二十五日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

東洋人労働者排斥ノ手段トシテ或種労働者ニ

対シ英語若クハ歐洲語教育試験ヲ課セントス

ル法律案ニ関スル件

本件ニ関シオリヴァー首相ト交渉ノ結果該案ハ之ヲ採ミ消スコトニ取計フヘキ旨首相ノ言明ヲ得タル次第ハ本月十六日付機密公第五号ヲ以テ及報告置候処更ラニ官林伐採問題ニ関スル別信機密第七号附属本月二十日附首相宛拙信ノ初項ニ於テ本官ト首相トノ会見ノ次第ヲ確認致置候而シテ本案ハ本月二十二日第二読会(前回ノ続キ)再開セラレ前

一三一 三月三十日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

東洋人排斥ノ危険雇傭法案ノ議事六箇月停止

ノ件

第一五号

(三月三十一日接受)

拙電第七号ニ関シ三月二十八日当議會ニ於テ該案二読会進行中首相及工務大臣ハ長時間ニ亘リ強硬ナル反對演説ヲナシ其結果大多数ヲ以テ六ヶ月間本案ノ停止ヲ可決セリ右ハ實際ニ於テ否決セラレタルモノト認メラル

一三二 四月四日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

東洋人排斥ノ危険雇傭法案等ニ関シ首相ノ回

答要旨報告及請訓ノ件

第一六号

(四月五日接受)

Dangerous Employment Bill 及官林採伐ニ関スル曩年ノ議會決議ニ対スル本官交渉ニ対シ(三月二十五日附機密第六号及第七号参照)四月三日附ヲ以テ左ノ通り首相ヨリ回答アリ右ニ依レハ前者ハ採潰サレタルモノナリ又後者ニ対シテハ前議會ニ於テ通過セル決議ハ現在ニ於テ政府ヲ拘束

セズトアリテ稍不安ノ語タルヲ免カレザルモ現政府ガ日英
 条約ノ規定ヲ尊重シ之ヲ遵守スルノ義務ヲ確認シ居レルハ
 左記ニ依リ明カナルノミナラズ三月二十八日ノ議場ニ於テ
 Dangerous Employment Bill 討議ノ際政府側ヨリ条約
 履行ニ関シ縷々切言セル処アリタルニ徴スルモ少クトモ現
 政府ニ於テハ進テ日本人ニ対シ差別的待遇ヲ加フルノ意思
 ナキヲ知ルニ足レリ就テハ本件ハ之ニテ一応打切り然ル可
 キヤ至急何分ノ御電訓ヲ請フ

前略 You will note that the Bill referred to regard-
 ing "Employment in dangerous industries" received
 six months' hold at one of the sessions last week.
 This, as you are aware, is equivalent to killing the
 Bill.

Referring to the matter of the resolution of 1912 and
 your conversation with the Honorable Attorney Gen-
 eral in respect thereof, I would state that a resolu-
 tion passed by a previous legislature is not binding
 on the Government at the present time: especially in
 this time, in so far as the resolution is contrary to a
 treaty subsequently ratified between Japan and Great
 Britain. This Government recognizes the binding

トト存候(機密第一号附属参照)

本案ハ多年政權ヲ掌握スル能ハザリシ現自由党内閣成立以
 来最初ノ排日案ニシテ之レニ対スル政府側ノ態度及其処置
 如何ハ以テ少クトモ現内閣力存続中ニ屢起リ得ヘキ向後ノ
 排日案全部ノ運命ヲ予知スルノ羅針トモ可相成從テ当館ト
 シテハ頗ル之ヲ重視セル次第ニ有之候蓋シ前信ニモ申進置
 候通り本案ハ表面上排日のノ文字ヲ明記セズ極メテ巧妙ニ
 計画セラレタル法律案タルノミナラズ

一、現在領州両政府ハ其政党ヲ異ニシ從テ領政府ヲ悩マス
 手段トシテ排日案ノ通過ハ從來スカル場合ニ於テ可能ナ
 リシコト

二、先般党首ブルユスター氏ノ死後自由党ハ内部ノ統一ヲ
 欠ケルヤノ觀アルコト

三、本案表面上ノ目的ハ帰還兵優遇ト云フカ如キ時節柄ノ
 好題目タルコト

等ノ事情ハ駆ツテ小官ヲシテ「オリヴァー」首相ノ保証ニ
 尚ホ不安ノ念ヲ挾マシメタルモノニ有之候然ルニ三月二十
 八日第二議會(前回ノ続き)ニ際シ鉦務大臣スローン氏ノ
 提議セル「六ヶ月間本案ノ議事進行ヲ停止セントスル案」

effect of the treaty and its obligation to conform
 thereto.

一三三 四月五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
 本野外務大臣宛

東洋人排斥ノ危険雇傭法案ノ議事六箇月間停
 止トナルニ至レル経緯ニ付詳細ノ件

機密公第一〇号

(四月二十四日接受)

大正七年四月五日

在晚香坡

外務大臣子爵

本野一郎殿

東洋人労働者排斥ノ手段トシテ或種労働者ニ

対シ英語若クハ欧洲語教育試験ヲ課セントス

ル法律案ニ関スル件

本件ニ関シテハ不敢拙電第十五号及同第十六号ヲ以テ及
 電報置候通り本案ハ三月二十八日第二議會ニ於テ今後六ヶ
 月間議事ノ進行ヲ停止スルコト相成(six months' hoist)
 オリヴァー首相ヨリハ四月三日付ヲ以テ本案ハ事実上否決
 セラレタルモノト同様ナル旨通牒有之候次第ハ御了承ノコ

換言スレハ少クトモ今期議會ニ於テ之レヲ否決セントスル
 ノ提案ハ議會ノ大多数ヲ制スル政府党全部ノ賛成(事實ハ
 自由党员中一名ノ不賛成者アリシモ其一方ニ於テ反對党中
 ヨリ一名ノ賛成者ヲ出セリ)ヲ得テ通過セラル。反之原案
 ノ議事進行賛成者ハ提出者タル「ホーソンスウェー」氏
 外保守党员五名ノ少数ニテ本案ハ首相ノ小官ニ保証セル如
 ク事実上採ミ消サレタルハ大ニ満足スル所ニ有之候本案ニ
 対スル当州政府ノ意向ハ前信檢事総長フアリス氏ノ反對演
 説ニテモ略ホ明瞭致候ヘ共更ニ三月二十八日第二議會ノ劈
 頭鉦務大臣スローン氏ノ提案理由説明ノ演説ハ最モ明確ニ
 当州政府力排日案ニ対スル態度ヲ公表シタルモノニ有之候
 其詳細ハ別紙プロヴィンス紙切抜(本紙ハ保守党系ニ属
 ス)ニテ御承知相成度就中同氏ノ演説中注意スヘキ要点ヲ
 挙クレハ

「本案ノ内容タル東洋人排斥問題ハ從來種々ノ形式ニ変
 造提議セラレタルコトアル極メテ古キ問題ニシテ一般ニ
 党略上有利ナリト思考セラルル時ハ何時ニテモ火中ヨリ
 取り出サルル焼栗ノ如キモノナリ」ト序シ千八百九十七
 年以降排日問題ニ対シ惹起セラレタル領州両政府間ノ葛

藤ノ歴史ヲ一々例ヲ挙ケテ詳説シ「現ニ反対党ノ地位ニ在ル保守党カ当州政府ヲ保持シタル間ニ於テモ「オタワ」ニ於ケル「ローリエ」ノ自由党内閣時代ニハ当州ハ屢々排日案ヲ通過セシメ「オタワ」政府ヲ窮地ニ陥レタルコト少カラズ然レトモ其都度領政府司法大臣ハ公文ヲ以テ州政府カ外国人及外国移民ニ關スル法律ヲ制定スルハ越權ナリト未ダ之レニ總督カ裁可ヲ与ヘタルコト嘗テナシ」トテ排日案ニ対シ領州政府間ニ往復セル公文書ノ摘要ヲ朗読シ「抑々領政府カ州政府ノ通過セル法律ニ裁可ヲ与ヘザルノ理由ハ日英條約ノ明文ニ基ク国家的ノ理由ヲ措イテ他ニアルナク此国家的理由ノ現ニ存スル限リ本案ハ例ヘ当州議會ヲ通過スルモ之レカ不裁可ハ過去ノ經驗ト嘗テ三ヶ年間領議員タリシコトアル自身ノ閱歴ヨリ見テ既明ノ事實ナリ」ト断シ更ニ同氏ハ開戦以來当州ハ日本海軍ニ負フ所大ナル所以ヲモ述ヘ「現ニ世界ノ大戰ニ際シ日本カ連合軍ノ為メニ努力セル事實ニ鑑ミ本案ノ如キモノヲ論議スルハ其時期ニアラズ」ト以上大局ヨリ之ヲ論難シ更ニ「地方の見地ヨリ觀察スルモ本案ハ英語又ハ歐洲語ヲ以テ教育試験ヲ課スルノ結果ハ敵國人

ニ越權ナリト宣言セラレタル法案ハ日支人ノ排斥ヲ明示シタルカ故ナリ、由來東洋人ノ生活程度ハ低クシテ我勞働者ヲ驅逐ス鉞務大臣ノ選挙区タル「ナナイモ」ニハ之レヲ見ザルモ「カンバーランド」炭坑ニハ千二百名ノ東洋人跋扈セリ（カンバーランド炭坑就働日本人坑夫排斥問題ハ多年ノ懸案ナリ）本案ハ戦後六ヶ月ヲ経テ施行セラルヘキモノニシテ所謂国家的理由ヨリ言フ時ハ本案ノ通過ハ帰還兵ヲ優遇スル上ニ於テ遙ニ愛國のナリ」トテ巧ニ詭辯ヲ弄シテ議場ヲ瞞着セントシ

次イテ前議長タリシ「ウイヤート」氏ハ嘗テ小官ニ内話セル如ク

「本件ハ表面上ヨリ差別的待遇ノ非難アリト雖モ若シ本案ニ二個ノ修正ヲ加フレハ辛ウジテ之ヲ通過シ得ヘシ即チ本案ヲ炭坑規則ノ一部トシ地上下就働ノ危険職業ハ英國人ニ限ルコトトスヘシ尤モ斯クテハ本案ハ其価値ナカルヘシ」ト揶揄シ

又リツチモンド選出ノ「マツクギヤー」氏ハ

「本案ハフレザー河漁業ニ印度人ヲ除外スルコトトナルヘク抑モ本案ハ之レヲ戰時施政ナリト称スルニ拘ラズ之

タル独塊人ヲシテ鉞山及火藥製造所ノ如キ軍事的ニ最モ危険ナル工業ニ陰謀ヲ逞ウスルノ機會ヲ与ヘ一方ニ於テ同盟国タル日本人ヲ排斥スルコトトナルヘシ現政府ハ当州民ニ対シテ全責任ヲ負担シ又領政府ト外国トノ關係ニモ十分ナル考量ヲ加フルハ勿論ナルカ更ニ之レヲ超越シテ英帝國ノ世界的政策ヲ援助スルニ吝ナラズ当政府ノ本案ニ対スル見解ハ現時ニ於テ斯卡ル法律ヲ制定スルハ危険ニシテ誤レルモノト云フニアリ延イテハ独逸ノ陰謀ヲ助長スルノ基ナリト認ム」

ト長時間快辯ヲ振ヒテ議員ノ反省ヲ促シ右ニ対スル「ホーソンスウェート」氏ノ辯駁ハ理論上ハ極メテ価値ナキモノト思ハルモ問題ノ性質上一般ノ人氣ニ投スル言辭少カラズ即チ同氏ハ

「日加間ニ協約ノ存スルハ事實ナルモ其ハ日本移民制限ノ條約ナリ、日本人ハ野心ニ富メル伶俐ナル国民ナレハ本案規定ノ英文ノ如キ直ニ修了シ得ヘシ鉞務大臣ノ説明ニヨレハ敵國語ヲ含ム歐洲語ヲ以テ試験スルヨリモ英語ノミヲ以テスルガ至当ナルカ如ク解セラルルモ斯クテ同盟国タル仏白塞人ヲ排斥セントスルノ意ナリヤ、数年前

レカ施行ヲ戦後六ヶ月後トセルハ明カニ矛盾セリ」トテ不賛成ヲ表白シ「クーパー」氏ハ「戦時ニ際シ生産増加ノ必要アル現在ニ於テ本案ハ不用ナリ」ト駁シ

最後ニ「オリヴァー」首相ハ

「本案ハ之レカ運用上ノミナラズ之レカ提出ノ動因ヲモ考量セザルヘカラズ提出者ハ明カニ本案ハ東洋人排斥ノ目的ニ出デ且ツ之レカ施行開始ヲ戦後六ヶ月迄延期スヘキコトヲ認容セリ、然ラバ今俄カニ現時ノ危機ニ際シ之レヲ制定スルノ必要ハ毫モ之ヲ認ムル能ハズ、本案ハ日本領事ノ抗議セル如ク明ニ日英條約ニ抵触シ州ニ於テ之レヲ制定スルハ越權ナリ日本人ハ加奈太ニ於テ最惠國民ノ取扱ヲ保証サレ居レリ」トテ本官ノ抗議ヲ朗読シ尚ホ帝國海軍カ太平洋沿岸ヲ保護セル次第ヲ喚起シタル後當議會ニ於テハ本案ハ六ヶ月間議事延期ヲ可決センコトヲ希望ス」

ト述ヘ討論終結ノ上「ホーソンスウェート」氏ノ希望ニヨリ正式ニ賛否投票ヲ徴シタル結果前記ノ如ク鉞務大臣ノ提議通り事実上否決被致候

思フニ從來多年野ニ在リ東洋人排斥問題ニ対シテハ保守党

以上ニ強硬ナル態度ヲ持シ来リタル現自由党政府カ第二議
会ニ際シ明確ニ本案ヲ以テ日英条約ニ違反シ州政府カ外国
人及外国移民問題ヲ議スルハ越權ナリトシ条約上日本人ノ
權利ヲ認メ之レヲ公言スルニ至リタルハ大ニ注目ニ値スル
処ノモノニシテ今州政府カ斯ク断然タル態度ニ出デタル事
情ヲ推測スルニ

現首相「オリヴァー」氏ハ其綽名ヲ Honest John ト称
セラルル如キ極メテ廉直ナル人ナルヲ以テ苟モ条約違反
ノ如キ非難ニ甘ンズル能ハザルコト

三月二十二日第二議會ニ政府ヲ代表シ本案ノ反对ヲ声明
シタル檢事総長フアリス氏ハ法理ノ人ナルヲ以テ条約ノ
如キハ之レヲ重視スルコト

鈺務大臣スローン氏ハ嘗テ領議員タリシコトアリテ排日
案ニ対スル領政府ノ意向ヲ熟知セルコト

製材者業、罐詰業者、其他事業家側ヨリモ夫々陳情セル
所アリ、討論中多ク此事ニ言及セザリシモ政府ハ對議會
策上專ラ日英關係ヲ提ゲ法案ノ破棄ヲ計ルヲ便宜トナセ
シコト

等ノ關係モアルヘク要スルニ今回排日案ノ提出ハ却ツテ議

右及報告候 敬具

写送付先 オタワ

註 別紙プロヴィンス紙及タイムス紙ノ切抜省略

一三四 五月一日 在ヴァンクーヴァー 浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

デイリー、サン紙持主ヨリ同紙日本号附録発
刊方提議アリタルニ付広告料支出方稟申ノ件

機密公第一四号 (六月六日接受)

大正七年五月一日

在晚香坡

領事 浮田郷次 (印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

サン紙日本号附録発刊方ニ関スル件

当地朝刊新聞「デイリー、サン」紙ガ去ル二月二十七日日
本号附録ヲ発行セル次第第八同日付公信第四一号ヲ以テ及報
告候通りニ候処原来当州ニ於ケル排日ノ思想ハ二十年来多
数民心ニ浸潤シ現ニ日本ハ開戦以來英國ト協同作戰特ニ其
当初ニ在リテハ帝國軍艦ハ当州沿岸警護ノ任ニ当リ州民ノ
我レニ負フ所頗ル大ナルモノアルニ拘ラズ過般州議會ニ於

員全部ニ対シ将来排日案ノ交渉上当方ニ有利ナル印象ヲ与
ヘ且スローン氏ノ論說ハ一面政府カ自己ノ立場ヲ弁護スル
手段トシテ各新聞紙ニ掲載セラレ從テ当州一般民ヲ多少ト
モ啓蒙スルノ一助ト相成リ保守党側ノ新聞ト雖モ政府ノ処
置ニ伺等異議ヲ挟ムモノ無之反之自由党機關紙タルタイム
ス紙(同主筆ニ対シテハ先般美府ニ於テ会食ノ際篤ト日本
ノ事情ヲ説明シ置ケル事アリ大ニ日本側ニ好感ヲ有ス)ノ
如キハ別紙切抜ノ如キ論評ヲ加ヘ尚ホ一般ノ誤解ヲ防ク為
メカ日英条約中本邦人ノ特權ニ関スル条項ヲ解説シ読者ヲ
啓蒙スルニ努メ居リ候

唯々反对党首領バウザー氏カホ氏案ノ議事進行ヲ援助シタ
ルハ党略上トハ言ヒ乍ラ同氏ノ人格ヲモ窺知スルニ難カラ
ズ從テ将来保守党カ政權ヲ掌握スル場合アリトセバ同氏ハ
此種排日案ノ処置ニ対シテハ自繩自縛ノ不利ナル地位ニ立
ツヘク此点同氏ノ為メニ遺憾ニ堪ヘザル次第第二有之候將又
提出者タル「ホーソンスウェート」氏ハ今期議會ニ於テ各
問題ニ対スル同氏ノ議論ヨリ察スルニ相当頭腦明晰ニシテ
快辯ト手腕トヲ有スルモノト察セラレ候得共智識階級ノモ
ノハ一般ニ同氏ヲ毛嫌ヒシ居ル哉ニ見受ケラレ候

テハ排日の議案ノ提出ヲ見タルニ徴スルモ如何ニ其根底深
キヤヲ想見スルニ難カラズ若シ夫レ所在飲食店ニ於テ邦人
ノ入来ヲ拒絕シ劇場等ニ於テ我觀客ニ対シ差別的待遇ヲ加
フルカ如キ不快ナル細事ニ至リテハ日常見ル所ニシテ其原
因ヲ質セバ多ク邦人ノ不始末ヨリ来ル自業自得ノ然ラシム
ル所ナリトハ云ヘ同時ニ洋人側ニ於テモ邦人ヲ誤解シ或ハ
其ノ利害ノ一致セサル事等モ亦排日ノ主因ヲ為スモノニ有
之候然ルニ南隣ワシントン州ニ於ケル對日感情ハ往年ト全
ク異ナリ近時殆ント排日ノ声ヲ聞カザルノミカ日米通商航
海ノ激増ト相俟テ却テ日本ニ好意ヲ表シ来レルヤニ見受ケ
候是レ畢竟同地方米人カ貿易ノ利益ヲ覚知シ又日本ヲ理解
スルニ出デタル結果ニ外ナラズト存候就テハ当地ノ如キモ
極力貿易ノ振興ヲ計リ同時ニ州民ヲシテ能ク我國ヲ了解セ
シムルニ於テハ排日問題ノ如キ自然ニ消滅スヘキ次第ト存
候思フニ当地方ニ於ケル排日の思想ヲ積極的ニ緩和シ日加
親善ノ実ヲ挙げントセハ兩國間ニ於ケル經濟的連鎖ヲ一層
密接ナラシメ移民問題ヲ暫ク朝野ノ埒外ニ置クニ非ザレバ
之ヲ達成スルコト不可能ニ可有之元来当州ノ如キハ勞働階
級ノ勢力甚タ盛ニシテ政治家宗教家ニ至ルマテ彼等ニ阿諛

迎合シ居ル状態ナレハ仮令現時ハ大戰ノ余響ニヨリ僅ニ排日ノ氣勢ヲ屏息シ居レリト雖モ戦争終結後ニ於テハ帰還兵等ノ横暴要求益々多キヲ加ヘ從テ在留邦人ニ對シテモ種々ノ不利ノ運動ヲ試ムルカ如キ事ナシトセズ斯カル場合ニ際会シ徒ラニ同盟ヲ經トシ條約ヲ緯トシテ排日運動ノ絶滅ヲ計ラントスルモ到底出来得ヘキモノトハ不被存候日加兩國ノ貿易ハ過去ニ於テハ甚タ振ハザリシト雖モ開戦以來從前ノ倍額ニ激増シ来リ候加奈陀ハ人口僅ニ七百余万ニ過ギズト雖モ米國ニ比シテ工業ノ發達セザル關係上却ツテ本邦製品ノ販路ヲ求ムルニ有利ナルモノナキニアラズ特ニ米國ノ戰時經濟政策ニヨリテ一頓挫ヲ來セル本邦商ハ勢ヒ加奈陀方面ニ之レカ補救ヲ求メザルベカラザルコト可相成候而已ナラズ加奈陀ハ天産豊富、地域廣大、將來日加貿易上最モ有望ナル地ニ有之當州ノ如キスラ林鋤漁業ノ各方面ニ於テ本邦資本家ノ手ヲ俟テ開發セシムヘキモノ少カラズ斯ノ如キハ一面當地方ノ經濟事情ヲ在本邦実業家ニ周知セシムルト共ニ他面當州民特ニ其実業家側ニ對シ本邦經濟界ノ現状ト對外邦商ノ希望ノ存スル所ヲ紹介シ茲ニ完全ナル日加間ノ經濟的連鎖ト了解トヲ把住シ得ヘク此曉ニ至ラハ排日

トシテ米貨五百弗（鐵道院廣告等最モ適當ト信ス）御支出相叶間敷哉尤モ該額ノミニテハ「サン」社申出額ニ比シ尚二百五十弗不足ニ有之候間若シ右五百弗ノ高御支出相出來候ニ於テハ同時ニ未タ當方面ニ支店等ノ設ケナク而カモ現ニ取引關係ヲ有シ又ハ事業ヲ當方面ニ擴張セントスル大会社商店例ヘハ

三菱合資会社 米井商店

旭硝子製造会社 湯淺商店

増田屋 阿部幸兵衛

安宅商会

等信用確實ナル会社商店ヘ御照会ノ上半バ補助ノ意味ニ於テ半頁大約七十五弗、四分ノ一大約四十弗ノ割ヲ以テ廣告掲載方御勧誘相煩シ度若シ政府筋支出金前記五百弗ニ充タザルニ於テハ夫レ丈民間廣告料ヲ以テ補足スルノ要有之候ニ付此場合ニ於テハ向後當地方ヘ販路擴張ノ見込アル玩具、莫大小タオル、絹物、刷毛類製造又ハ取扱業者（小官ノ希望トシテハ廣告主ハ何レモ信用確實ニシテ外國取引ノ資力ト能力トヲ具有スルモノニ限り該廣告ヲ以テ真ニ内外取引ノ媒介タラシメ度）ヘ諮リ全額七百五十弗（万止ムヲ得ザ

思想ノ如キ何等一顧慮ヲモ働セザルコトトモ可相成將又加奈陀ニ於ケル東洋移民制限ノ存置スル限り極メテ少数ニ入國スル現在ノ日本移民ノミニヨリテ根底アル邦人ノ發展ハ期シ難ク此点ニ於テハ是非共本邦実業家ヲ日加貿易ノ促進ニ誘致スルノ必要ヲ相認メ候而シテ可能的本邦ノ事情ヲ州民ニ紹介シ兩國貿易増進ノ一法トシテ当地英字新聞ヲシテ日本号ヲ發刊セシムルハ排日緩和ノ如キ政治の意味ヲ離レタル一ノ經濟上ノ啓発運動ト認メラレ候処如此ハ単ニ一回限りノ日本号ノ發行ノミヲ以テ克ク其目的ヲ達シ得ルモノニアラズ引續キ兩三ヶ年間ニ亘リ毎年一、二回此種印刷物ヲ刊行スルニ於テハ其効果モ亦尠少ナラザルヘク相認メ候処過般本件ニ関シ「サン」紙持主「クロミー」氏ト内話ノ結果同氏ヨリ別紙甲号寫ノ通り本邦側ヨリ廣告料金一千弗分斡旋スルニ於テハ十二頁大日本号附録ヲ發行スヘキ旨提議有之尙ホ小官ノ問合ニ對シ當市以外ヨリ少クモ七百五十弗ノ廣告料ヲ得ルニ於テハ承諾シ得ル旨別紙乙号ノ通り返信有之候処右ハ前述ノ理由ニヨリ可相成成立実行致サシメ度就テハ紐育イヴニング、ポスト紙日本号附録發刊ノ例ニ倣ヒ帝國政府ニ於テ毎回一頁又ハ二頁ニ對スル廣告料

ル場合ニ於テハ在日本官商側ヨリ最少額五百弗ヲ得度左スレハ不足額二百五十弗ハ「シャトル」方面邦商ニ對シ廣告勧誘可相試候）ニ達スル高何トカ御配慮相煩シ度此種廣告蒐集ニ對シ官憲ノ干与ハ甚ダ好マシカラザル次第第二有之候ヘ共當方ノ事情止ムヲ得ザル儀ハ御諒承相成度候右金額ノ問題相纏リ候上ハ内容記事ニ於テモ充分精選シ真ニ世人ヲ裨益スルニ足ルモノタルヲ要シ候処若シ現予定通り八月中ニ發行スルモノトセバ余日モ少ク候ニ付朝野知名ノ士ヨリ相當ノ記事寄稿ヲ得度候間是レ亦同時ニ何分ノ御配慮（或ハ材料、写真等）相煩シ度若シ八月ニ間ニ合ヒ兼候ハバ来年二月當州政治季始ノ頃ヲ以テ發刊セシムル事ニ致度候間右御含ヲ以テ何分ノ御考料相成様致度此段申進候 敬具

註 別紙省略

一三五 六月十二日 後藤外務大臣ヨリ 在ヴァンクーヴァー浮田領事宛

デイリー、サン紙日本号附録發刊ニ付廣告料

支出承認ノ件

機密送第一号

サン紙日本号附録發刊方ニ関スル件

本件ニ関シ客月一日付機密公第一四号ヲ以テ縷々御申越ノ趣了承就テハ金七百五十弗ノ内五百弗特ニ機密費ヨリ支出ノ事ニ決シ別ニ及御送金候間適當ナル名義ノ下ニ先方ヘ御交付相成度尤モ不足式百五十弗ニ対シ大会社商店ヘ広告応募勧誘方ノ義ハ當方ニ於テ取計難致候ニ付貴地ニ於テ可然安排相成度將又本邦知名ノ士ニ寄稿紹介方ノ義ニ就テモ貴官ニ於テ適當ノ人物ヲ教示新聞社ヨリ直接依頼致サセ候方可然ト被存候間右様御承知相成度此段回答候也

追テ鐵道院ヘハ掲載材料送付方照会中ナルニ付後便ヲ以テ可及転送積ニ候

一三六 六月十二日 中村通商局長ヨリ
木下鐵道院運輸局長宛

外国新聞日本号ニ掲載ノ材料寄贈方依頼ノ件

通送第五一号

英領加奈陀晚香城市ニ於テ発刊スル「デイリー、サン」新聞社ニ於テ日加親善及兩國貿易増進ノ目的ヲ以テ今回附録日本号発行ノ計画有之候趣ヲ以テ同号ニ掲載スヘキ材料寄贈紹介方在同地浮田領事ヨリ稟申ノ次第有之候処右ハ機宜ノ好計画ト認メラレ候ニ付テハ貴院ニ於テ適當ノ材料(英

文)有之候ハハ至急供給方可然御配慮相成候様致度此段及照会候也

追テ右日本号ハ来ル八月発刊ノ趣ニ有之尚ホ御寄贈物ハ便宜上當方ヘ御送付相成度為念此段申添候也

一三七 八月十四日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
後藤外務大臣宛

サン紙日本号発刊方延期ニ関スル件

公第一七七号 (九月二日接受)

大正七年八月十四日

在晚香坡

領事 浮田郷次(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

当地朝刊新聞「デイリー、サン」紙第二回日本号附録発刊方ニ付去ル五月一日付機密公第一四号ヲ以テ上申ノ次第有之候処六月十二日付通機密第一号ヲ以テ金五百弗御支出相成敬承当初該日本号ハ可相成来ル三十日陛下御誕辰日ヲトシ発刊為致度希望ニ有之候処前信ニ対スル御意向判明セザリシト軍艦霧島来航等ノ事情ニヨリ準備整ヒ兼ネ此際粗末ナルモノヲ発刊セシメンヨリハ寧ロ明年二月紀元節即チ當

州政治期節頃ヲ期シ可成完全ニシテ体裁ヲ具フルモノヲ発刊セシムルノ利益ナルヲ認メ該紙發行方延期セシムルコトニ致候尤モ其間日加貿易増長方ニ付時々世人ノ注意ヲ喚起セシムルコトトシ其手始メトシテ本日発刊同紙社説欄ニ於テ別紙切抜ノ如キ記事ヲ掲ケ尚ホ七月四日付通送第四五号ヲ以テ御送付相成候鐵道院掲載材料ハ向後隨時該社ニ於テ活用掲載ノ筈ニ有之候間右ニ御含ミ相成度為念此段申進候敬具

追テ毎々御手数ノ次第ニ候ヘ共鐵道院掲載材料ニ付スヘキ挿絵材料トシテ東京駅其他適當ナル写真鐵道院ヨリ御取寄セ御回付相煩度新聞社ヨリ依頼ノ次第モ有之此段御依頼申進候也

註 別紙省略